

## 小出俣川 マチホド沢

2012年10月7~8日

L山本、斉藤（記）

そろそろ沢シーズンも終わりかなと考えていると、珍しく山本さんからお誘いがかかる。遡行する沢はマチホド沢だという。以前より行きたいと思っていたが、なかなか機会に恵まれずにいた為、即答で決定とする。だが、いきなりにしては、手応えありそうな所を持つてくるなあ、というのが正直な感想であった。さすがは山本さんだ。

10/7 入山祝いでの酒が残ったまま、川古温泉から林道を歩き出す。千曲平からは林道をそれ、小出俣川左俣の右岸を歩き出す。地図には林道のマークが記されているが、踏み後すら無い。しかし、以前にセンノ沢の遡行の際に来ている為、気にせず足を進める。松ホド沢出合より入渓する。この夏の沢では殆ど

寒い思いをせずにきたが、さすがに10月ともなると、水が冷たく感じる。入渓直後は大ヒラナメのセンを初め、癒し系の溪相が暫く続く。



大ヒラナメのセン

正面にセンノ沢の深い切れ込みが見えると谷は右にそれて、100mの大滝となり水流を落とす。谷はそれまでの溪相とはガラリと変わり、険しい表情を見せる。大滝から始まる、ここから先の遡行は小出俣山の山頂まで急峻な傾斜に終始する事となる。3段100m大滝の1段目は右壁から取り付く。壁を中間部まで登りハーケンを打とうと試みるが、リスが開いてしまい、なかなかキメられない。暫く、粘ったが最後は開いたリスにハーケンを差し

込み、突破する。



### 3段 100m 大滝

続く2段目の袂から、急な右ルンゼを直上後、トラバースで大滝の落ち口に出る。そこで、見晴らしのいい岩の上を選び、暫し休憩する。大滝上の水流はやけに細くなり、この先に大きな滝が続くとは想像出来ない。樹林の中の静かな流れを少し進むと7m チムニー滝が現れる。シャワーを嫌い、左岸を木の枝を頼りにゴボウで登り小さく高巻く。ここでは、足元が滑りやすく、結構、腕がパンパンになっ

てしまった。その後、谷が開けて70mのスラブ滝が前方に見えてくる。この遡行中最も見応えのある景色だろう。手前の30m程のスラブ滝を快適に登り、70m滝の袂に立つ。上部で2条に別れオゼノ沢と出合う70m滝は、上に行くにしたがい傾斜が増している。ここはロープを出して、水流左より取り付き、左上バンドを辿り、右岸の木にてピッチを切る。2ピッチ目は山本さんのリードにて右岸の樹林を直上する。登りきった地点よりオゼノ沢を渡り、本流との中間尾根の濃いヤブを漕いで、6m トイ状滝の上に降り立つ。続く15m ナメ滝を越えた所で、右岸側の河原でテン場をとる。そのテン場からは、目の前に20m ナメ滝、上部に60mの大ナメが望める。テン場の整地を終えた頃から風が出始め、ブルーシートを張るのに苦戦する。エスケープ用に右岸にロープを垂らした後、焚き火に取り掛かる。その後、雨が降り始めるが、焚き火を囲んでの楽しい会話は遅くまで続く。

10/8 朝、ツェルトから這い出すと、空には一面の青空が広がっているが、気温は低く、着替えが辛く感じる。目の前より続く、ナメ滝群にワクワクさせ、遡行をスタートさせる。

20m ナメ滝を快適にこなし、続く 60m 大ナメはロープを結び、登攀を開始する。1P 目は水流左より取り付き、直上後、右岸の木を目指しトラバースしてピッチを切る。傾斜の増す 2P 目は落ち口に向かい真っ直ぐロープを伸ばす。ハーケンが良くキマリ、山行中最も楽しいクライミングを楽しめた。この後もナメ滝がどこまでも続き、なかなか気が休まらない。やがて沢瀉も消え、僅かに笹ヤブを漕ぐとマチホド沢と大ビノ沢の中間尾根へと飛び出す。周りの山並みを眺めながら、腹ごしらえを済ますと、下降ルートとして使う大ビノ尾根へと、背丈より高いヤブをトラバースする。大ビノ尾根に乗ると GPS を確認しながら下降する。濃いヤブも高度を下げるにし

たがい、マシになる。



マチホド沢と大ビノ沢との中間尾根

1450m 地点で岩場に下降を阻まれると、小出俣川右俣に向けて東に斜面を下る。やがて現れる沢瀉を辿ると、右俣支流となる。沢下降では困難な箇所は一切無く、スムーズな下降が出来た。大ビノ尾根でのヤブ漕ぎはあるものの下降路として有効であると思う。

マチホド沢では全体を通して、程良い緊張感を伴った遡行が楽しめた。谷川連峰の沢らしい、手頃な中級ルートとして大変いい沢であった。



大ビノ尾根より俎ぐら山稜と谷川岳を望む

10/7 川古温泉 6:20～7:10 千曲平～7:50 松ホ

ド沢出合入溪点 8:15～9:10 大滝下～11:05 大

滝上～14:10BP

10/8 BP8:20～11:30 マチホド沢、大ビノ沢中

間尾根～17:00 川古温泉